

2018年第1四半期（1月～3月）における海外安全対策情報

2018年4月
在キャンベラ日本大使館

1 ACT（首都特別地域）の治安情勢

治安情勢は全般的に安定していますが、犯罪発生率は日本に比べて高く、最近
は車上荒らしや強盗など、金銭目的の犯罪が多発しています。繁華街やショッピ
ングセンターの集まる地域だけでなく、静かな住宅地でも発生しており、中には
ナイフや銃などの武器を使用した例もあります。外出時は、貴重品を外から見え
ないように携行する、車内には貴重品を置かない、車や自宅には警報などの防犯
設備を施すなど、普段から安全に対する十分な心掛けが必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪発生地域の傾向

全般的に減少しています。Molonglo (-40.5%)、Inner North (-39.2%)、
Belconnen (-38.2%)、Tuggeranong (-32.0%) Gungahlin (-31.8%) で大きな減
少が見られます。

(2) 犯罪発生件数と犯罪の傾向

ア ACTでの3ヶ月間の犯罪発生件数（カッコ内は昨年同時期の発生件数）

・殺人、殺人未遂	：	0件	（	1件	）	-100.0%
・暴行	：	618件	（	818件	）	-24.4%
・性的暴行	：	101件	（	131件	）	-22.9%
・対人犯罪	：	47件	（	83件	）	-43.4%
・不法目的侵入	：	531件	（	733件	）	-27.6%
・強盗	：	67件	（	68件	）	-1.5%
・窃盗	：	2128件	（	2607件	）	-18.4%
・車両盗難	：	283件	（	401件	）	-29.4%
・器物損壊	：	1023件	（	1514件	）	-32.4%

ACT全体の犯罪発生件数は昨年同時期に比べ約2割減少しています。

イ 犯罪別の傾向

昨年同時期に比べ全般的に減少していますが、強盗は引き続き多く発生し
ているため注意が必要です。

(3) 邦人の一般犯罪の被害については認知していません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

- (1) 豪州政府の発表するテロ警戒レベルは、国家テロ脅威警戒システムの5段階中、引き続き上から3番目の「起こりそうである (Probable)」とされています。
- (2) ここ3年間、豪州全体で14件のテロ事案が未然に防止され、6件が発生しています。2017年6月にはメルボルン東部のサービス・アパートで男が見知らぬ男性を射殺し、女性1人を人質に取った上で同アパートに立て籠もり、駆けつけた警察と銃撃戦の末、射殺されました。同年7月にはシドニーで航空機に爆弾を持ち込もうとしたテロ計画が事前に抑止され、同年11月にはメルボルンで大晦日にテロ攻撃を計画していた20歳男が逮捕されました。2018年2月にメルボルンでは、ISに感化された24歳のバングラデシュ人女性が、居住していた住宅の大家の男性をナイフで刺傷させました。豪州政府は、引き続きテロ容疑者の摘発を推進し、政府関連施設等の警備を強化するとともに、若者の過激化防止対策に力を入れています。
- (3) 政府中枢の多く集まるACTでは、現在のところ具体的なテロの脅威を示す情報は把握されていませんが、世界規模でテロが発生している中、テロ対策が重視されています。連邦議会等の警戒体制はより強化されていますが、人が多く集まる場所に足を運ぶ際は十分な注意を払う必要があります。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

邦人の誘拐等の被害については認知していません。

5 日本企業等の安全に関わる諸問題

- (1) 一般的に対日感情は良好ですが、シドニー等大都市において、反核団体等により、小規模ながらデモや抗議活動が行われています。
- (2) ACTにおいては認知していません。

参考：

1. [ACT警察犯罪統計](#)
2. [ACT（首都特別地域）の事件発生状況（2018年1四半期）](#)